

## 【高知県立大学】

社会福祉学部 1 回生

安東(あんとう) 中国内モンゴル出身

私費留学生



### 高知での新たな冒険

高知に来てから、もうすぐ一年だ。この一年間で新しい体験をしたり、様々な人に出会ったりした。まるで新たな冒険のようだ。充実した楽しい生活を送っている。しかし、一年前、高知に来る前には友達から「行ったら、後悔するかもよ」と言われた。何故友達がこのように言うのか。その理由は高知が東京から遠くて田舎っぽいところだと思っているからだろう。当時、友達の話を聞いた時、確かに心配した。しかし、ある日、日本語学校の先生と一緒に食事した時、友達が話したことについて先生に相談した。先生は「行ってみないと分からないでしょう」「行ったら、自分が思った以上にいいところかもしれない」と言われた。この話を聞いてから、心配する気持ちが消えて、高知に行くことを決めた。その後、自分の判断を信じながら高知市に向かった。これで、高知での新たな冒険が始まった。

高知県立大学は僕にとって初めての大学で、ここでの体験は全てが冒険だ。大学に入ってから二週間後、僕は「合気道」というサークルに参加した。合気道の先生や先輩から大変お世話になっている。合気道の先生はいつも「楽しくなければ人生じゃない、笑え、はあはあ〜」とおっしゃっている。先生の話は僕はこのように理解している。「泣くも一日、笑うも一日、そうだったら、笑ったままで一日を送った方がよいではないか。」僕にとって、合気道は、体の鍛錬だけではなく、心の鍛錬もできる活動だと思う。

高知での一年間を振り返ると一生忘れられない思い出が次々に出てくる。中でも一番感動したことは、12月ごろ、はりまや橋の地下駐車場で僕が携帯を落としてしまった時のことである。気づいて駐車場に戻った時にはもう見つからない。落ち着かないまま、すぐ交番に行き紛失届を書いた。これで、携帯がなくなるのは二回目だ。一回目は東京でなくなった。その時も交番に行き紛失届を書いたが、結局、見つからなかった。前回の体験があったのでその携帯が見つかるのはもう諦めていた。しかし、翌日の朝、思いがけず警察署から連絡が来た。「似ている携帯があるので、警察署に身分証明書を持って来てください」という連絡だ。警察署で確かめた後、僕の携帯だと確信した。警察や携帯を拾ってくれた人には心から感謝している。そして、僕は高知に来て本当によかったと思っている。

高知での冒険はまだ続いている。これから、どんな体験が待っているのか分からない。どんな人に出会うのか分からない。しかし、一つ分かっているのは、僕が高知での冒険のおかげで成長している、ということだ。